

避難の考え方(新型コロナウイルス感染症)(案)

1. 災害が想定される地域では
ためらわず避難行動を

2. 命を守るための緊急的な
避難場所も選択肢に

3. 避難場所での
感染症対策の徹底

事前にハザードマップ等を確認

・浸水が想定される地域

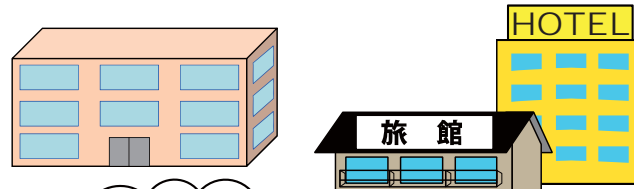


←浸水が
想定される地域

・土砂災害が想定される区域



←土砂災害が
想定される区域

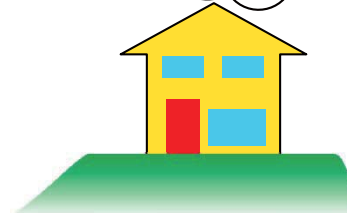
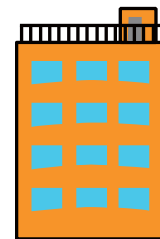


市町村の
指定緊急
避難場所

宿泊施設等

自宅

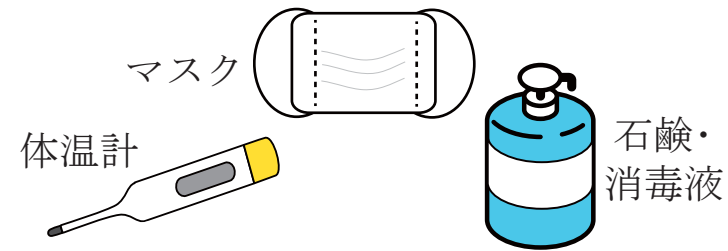
親戚、
友人の家



※頑丈な建物の高い階や
浸水が想定されない地域等

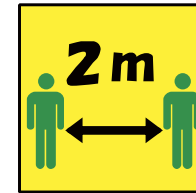
手洗い・消毒の徹底
定期的な検温・症状チェック

✓持ち物に追加



3密を避ける
(密閉・密接・密集)

2 m以上の
距離を保つ

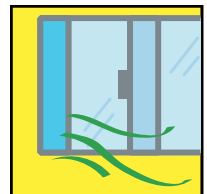


背中
合わせ

・段ボール等
で間仕切り



・発熱等の
症状がある
人のための専用スペース



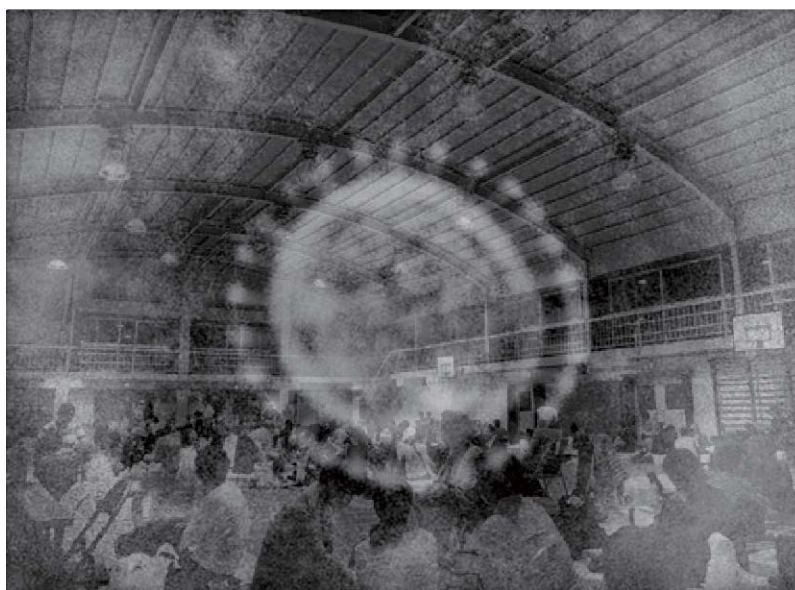
換気

※避難行動・避難生活に必要な物(食料(最低3日分)・衛生用品等)は、自助として各自で準備しましょう。

掲載場所：NPO法人 環境防災総合政策研究機構
<http://www.npo-cemi.com/index.html>

新型コロナウイルス感染症流行時の 災害と避難環境を考える手引き (地方自治体編)

～ Living with Corona ～



第一版

編著 新型コロナウイルス感染症と災害避難研究会

松尾一郎 東京大学大学院情報学環総合情報研究センター客員教授
根本昌宏 日本赤十字北海道看護大学看護薬理学領域教授
植田信策 石巻赤十字病院副院長 呼吸器外科医師
森本真之助 伊勢赤十字病院救急部 医師
川口隆尋 CeMI 環境・防災研究所 上席研究員